

パネルディスカッション資料（8月3日）

パネルディスカッション
東日本大震災の報道

平成24年8月3日(金)
第55回全国新聞教育研究大会
北海道十勝・帯広大会

パネラー紹介
萩尾 信也 氏
毎日新聞社会部編集委員



略歴
今年度日本記者クラブ賞受賞
著書「三陸物語」
東日本大震災の直後から被災地現場に入り、岩手県・三陸沿岸 釜石市の避難所や知人宅に居候しながら、取材を重ね、被災者の言葉を綴った現場ルポ「三陸物語」は、201回に及ぶ長期連載記事となった。

パネラー紹介
勝木 晃之郎 氏
北海道新聞 東北臨時支局 編集委員



略歴
1992年北海道新聞社入社、北見支社報道部を皮切りに、95年に経済部、99年に東京政経部、2004年に国際部、2005年にシンガポール支局、2008年に報道本部、2011年10月から東北臨時支局(仙台)駐在(編集委員)、43歳。

パネラー紹介
横田 光俊 氏
十勝毎日新聞社 編集局デスク



略歴
92年十勝毎日新聞社入社。社会部長、編集委員を経て、現在編集局デスク。
98年「太平洋岸に巨大津波痕跡」報道、2000年「巨大津波は来るのか？」連載。
02年「守ろう十勝、巨大地震はまた来る」連載(翌年に十勝沖地震)。
10年「震災は忘れたころに…十勝沖地震から7年」連載。

コーディネーター
紹介
若山 茂樹 氏
十勝毎日新聞社 NIEコーディネーター



略歴
中学校教諭時代は、生徒指導、教育相談活動に力を発揮される。
2001年、北海道十勝新聞教育研究会会長となり、第48回全国新聞教育研究大会十勝・帯広大会の実行委員長を勤める。
現在十勝毎日新聞社NIEコーディネーターとして活躍。

各新聞社の取材方針の紹介

毎日新聞 号外

東北で巨大地震

M8.4 宮城 震度7

大津波 死者多数



東日本大震災 津波被害 死者多数

津・宮古情報カメラ



毎日新聞

死者・不明1500人超

大津波で壊滅的被害

東北沖大地震 余震続く中 懸命の救助

放射性物質漏えい

福島県 汚染水 処理 関係者 慎重




牙むく波 街のむ

東北・関東大地震

車や住宅次々と ぐれきの山ぼうぜん

建物の姿消えた




東日本大震災

十勝にもなお余波

イベントの中止相次ぐ

避難漁船が帰港




物流まひ 生活直撃

生鮮食品 値上がり懸念
燃料品薄 高騰追い打ち



漁業被害各地で億単位

厚労省 漁業被害 調査 実施



変わり果てた吉里石巻

支え合う心 健在

85歳の母 ストープで煮炊き、お堀分け…

叔母の家は跡形なく

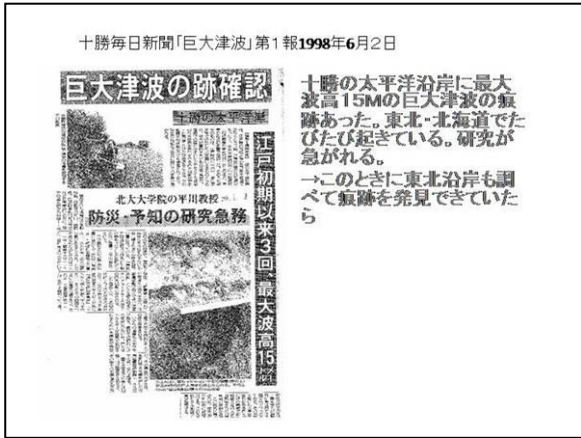


3・11あの日から

「船を見に行く」最後に

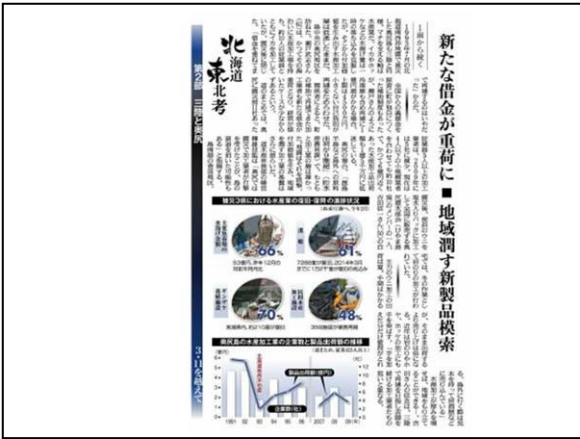
船長の社長



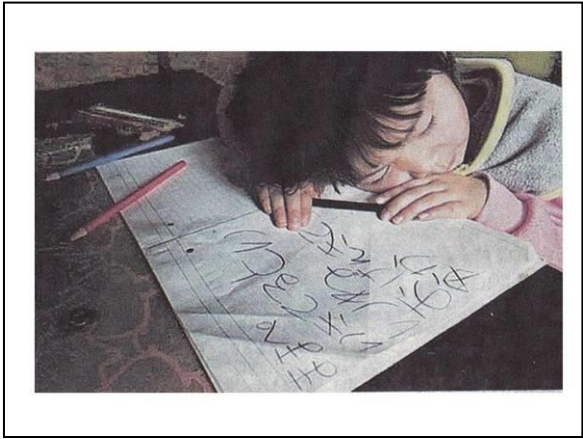


渾身の記事





コーディネーターが選んだ
1枚の記事



震災に関わる現在の報道を語る



海に向かった1年——営みと思い記して

三陸物語

うつろう春夏秋冬「生老病死」胸に去来



2011年3月11日の震災から1年が経ちました。この1年、私たちは海に向かい、様々な営みを行いました。この1年を振り返り、思いを記して、三陸物語として発表しました。

2011年3月11日の震災から1年が経ちました。この1年、私たちは海に向かい、様々な営みを行いました。この1年を振り返り、思いを記して、三陸物語として発表しました。

「何も言えず別れて…」から1年3カ月

お父さん、お帰り

「もう後ろは向かない」



震災から1年3カ月。お父さん、お帰り。もう後ろは向かない。この1年3カ月の思い出を、お父さんへ宛てて書いた手紙を、お母さんが読んでくれた。お父さん、お帰り。もう後ろは向かない。

天国の祖父思い弾く

聖石の女子高生 礼のの主婦からピアノ



聖石の女子高生 礼のの主婦からピアノ。天国の祖父思い弾く。このピアノは、祖父が生前に弾いていた。礼のの主婦は、祖父の思い出を、このピアノを通して、天国に届けた。

今の仕事「ルポとかち、厚内小学校で自助教育」2012年7月

災害時の「自助」児童に浸透

防災対策に熱心な浦幌町。厚内小学校で、児童が大人の指示がなくても自らの判断で避難する教育が進んでいる。学校が自ら主体的に動かなければ、子供たちの命は守れない。現状では、十勝で予想される災害(津波地震、直下型地震、大雨災害)、から子供たちの命は守れない。新聞でも、学校でもまずやるべきことは「命を守るための報道・教育」ではないか。



教育関係者にぜひ伝えたいこと

質問タイム

まとめ

